

「
もうひと仕事を履いて
そのブーツを履いて
かて」



CONTENTS

- P006. **TOPICS レッド・ウィング2013 F/W新作
「IRON RANGE/MUNSON」**
- P010. **PICK UP! 編集部が注目した一足「ICE CUTTER」**
- P014. **レッド・ウィングが
日本にやって来た日**
- P023. **東京カフウィング file #01**
- P024. **僕たちレッド・ウィング主義**
- P108 **東京カフウィング file#02**
- P109. **RED WING マニアックス**
- P116. **レッド・ウィング女子目線**
- P120. **東京カフウィング file#03**
- P121. **靴に賭けた男たちが見たレッド・ウィング**
- P125. **RED WING GLOBAL STAFF SNAP**
- P132. **RED WING SHOE STORE@SEOUL**
- P136. **アメリカ本社に行ってみた**
- P139. **東京カフウィング file#04**
- P140. **ブーツをもっともっと楽しめる靴下選び**
- P142. **「これでギリギリです」—履き潰すまで靴を長く愛するために—**

BECKMAN STYLE



きれいめヴィンテージと紳士靴のようなブーツを

30's Lee のショップコートと Levi's 501XX レザー、40's ファイブブラザーズのネルシャツ。状態のいいきれいめなヴィンテージに合わせると、No.9010 のクラシックな上品さが洋服の風合いにマッチして引き立ってくる。(コーディネート/ベルベレジ (東京・原宿))



ミネソタのワークブーツをNYスタイルで履いてみる

ショートトレンチにアバクロのストライプシャツ、Levi's 511 で、ニューヨーク風のきれいめスタイルに No.9023 を合わせた。ミネソタのレッド・ウィングをニューヨークで履くところという感じ、といったところだろうか。(コーディネート/D クロージング (東京・高円寺))

ワックスジャケットと相性のいいレザーの光沢

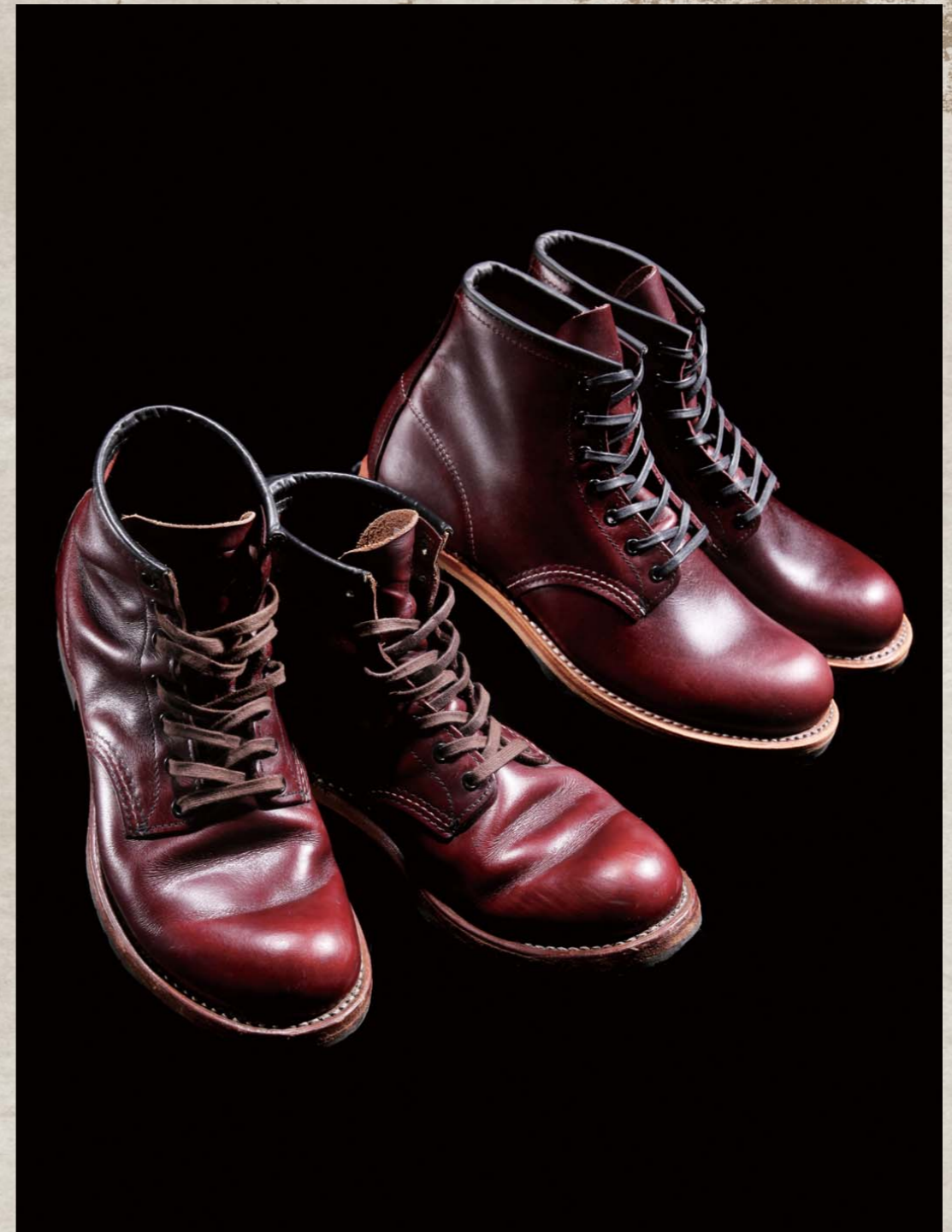
ベックマン No.9013 に Levi's 501 Big E、パプアー・インターナショナルを。ワックスジャケットと No.9013 の光沢感のバランスで見せる。デニムの裾位置も参考になる。プリティッシュ調で統一した小物づかいは魅力。(コーディネート/アトラクションズ (東京・原宿))



靴と金髪のグラデーション 攻めるクラシックドレスの履き方

40's スイス軍スノーパーカー、70's のコットンツイルパンツの全身白づくめに、No.9022 のブラウンと金髪に染めたヘアスタイルで、トップ・ボトム同系色グラデーションという高難度スタイルを成功させている。(コーディネート/D クロージング (東京・高円寺))

AGEING No.9011



ブラックチェリーカラーのフェザーストーンを使った No.9011 をおよそ2年間エイジング。数週間に一度バーガンディ色のブーツクリームを塗った成果である。持ち主はレッド・ウィングのなかでも「クラシックドレス志向のブーツなので、他のワークブーツに比べて、荒しい履き方は避けている」とのこと。深く落ち着いたレザーの色味がお見事。

「ブーツインすると脚絆の役割もあったと思いました」



曲がりくねった山道をどこまでもクルマで走る続ける、しまいは道なき道に分け入ってロガーNo.8210が到着すると、東京チェーンソーの森谷隼斗さんが出迎えてくれた。さっそく足を通していただきながら、森林整備に潜む足元の危険についてうかがう。「山の斜面は滑りやすいので、転倒や落下の危険もあります。あと倒木が足に転がってきたり、蔓にひっかかっていた木が落ちてきたり、チェーンソーが足先に触れる可能性もあります。ほかにもマムシやハチが出るなど、山の仕事は危険と隣合わせです。」

これは雑誌でよくいわれる過酷な環境、そのものではないか？ No.8210は力を発揮できるのか？ 森谷さんはこれから伐採する木が倒れる方向を真剣に読んでいます。ガガガーツ、チェーンソーが唸りだし、木の根本に入っていく。少しずつゆっくりと木が傾きだし、最後の刃を入れるとギギッと大きな音を立てて倒れていったのだ。

「このブーツ、持ったときは重く感じたのですが、履いてみると重たさを感じませんでした。かかとが厚い分、少し滑る気はしますが、逆にそれが体をコントロールする感じになり、それほど気になりません。革が硬いので足首が固定されると歩きづらくな

【レッド・ウィング現場主義.04】 森のフィールドワークで 最大限の実力を発揮

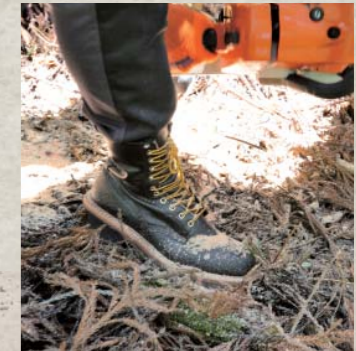
レッド・ウィングのカタログのなかで、ある意味もっとも“ワークブーツ”らしい佇まいを見せるのがこの「ロガー」ではないだろうか。9インチ丈の存在感、グリップ感のあるソール……。やはりこのブーツがもっとも輝くのは“森林”。ならばこの人たちを置いてほかにない……。森林装備のプロフェッショナル「東京チェーンソー」を訪れた
写真●藪崎 大 (WPP) 文●本誌編集部



左/取材にご協力いただいた、東京チェーンソーの森谷隼斗さん。上/森谷さんの仕事道具。足元はスパイク地下たびと脚絆、長靴など。脚絆は裾を引っかけることに起因する事故を防いだり、足首や足の甲への受け傷を防ぐ目的で使われる、日本では江戸時代から伝わるワークウエアだ。



伐木を実演していただいた。まず木を倒す方向を確認し、頭のなかで倒れる様子をシミュレーションする。続いてチェーンソーを入れる部分をチェックし、まず下に水平に、続いてその水平線に向けて上から斜めに切っていく。一気に切り倒すのではなく、倒れる方向を見定めながら慎重に切っていく様子がうかがえた。



るかと思いましたが、そうでもなく、先心の安心感も感じました。ブーツインすると脚絆の役割(スボンの裾が障害物に絡まらない、脛を守る)もあると思いました。リアルロガーの実地検証に耐えるスベック、レッド・ウィングの矜持を西多摩山中でかいま見たのである。



【東京チェーンソー】
東京都西多摩郡檜原村小沢3840-2
☎042-588-5613
http://www.tokyo-chainsaws.jp/

**「森の番人」
「東京チェーンソー」**
植え付け、下草刈り、除伐、枝打ちなどの育林作業を中心に、森林内にあるスギやヒノキ、あるいは広葉樹などを価値のある優良な材に育て、同時に森林そのものを豊に仕立てる活動をしている「東京チェーンソー」。森や木に関する幅広い仕事に従事している。また一般の人に森や木に親しめる機会をと、トリックライミング体験会も開催している。詳しくはホームページなどで確認を。



No.9874
**Irish Setter/
6" Moc-toe**



レザー/ブラック “クロンダイク”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.23
サイズ/D6.5-11
価格/3万5910円

No.9870
**Irish Setter/
6" Round-toe**



レザー/ブラック “クロンダイク”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.8
サイズ/D6.5-11
価格/3万2970円

No.9866
**Irish Setter
9" Pecos**



レザー/ゴールドラセット “セコイア”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.17
サイズ/E6.5-11
価格/3万6960円

No.9871
**Irish Setter
6" Round-toe**



レザー/ゴールドラセット “セコイア”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.8
サイズ/D6.5-11
価格/3万2970円

No.9875
**Irish Setter
6" Moc-toe**



レザー/ゴールドラセット “セコイア”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.23
サイズ/E6.5-11
価格/3万5910円

No.9877
**Irish Setter
8" Moc-toe**



レザー/ゴールドラセット “セコイア”
製法/オールアラウンド・グッドイヤー・ウエルト
仕上げ/レザークリーナー、オイルまたはコンディショナー
ソール/トラクションレッド

ラスト/No.23
サイズ/D6.5-11
価格/3万9900円

RED WING
HERITAGE WORK
[IRISH SETTER]



獵犬アイリッシュセッターの毛色を彷彿させる

「アイリッシュセッター」は、1950年に、レッド・ウィング社の新たなハンティングブーツのシリーズとして誕生した。セコイアの樹皮を使ってなめされた、オレンジのトーンを帯びた革、オロラセット・レザーが獵犬アイリッシュセッターの毛色に似ていたことがその名の由来だ。1952年には、白く、底の平らな、クッション性の高いソールを装着した8インチ丈のモックトゥブーツ [No.877] がデビューした。これを機に、1954年に様々なバリエーションが追加された。本来、ハンティング用につくられたシリーズだったが、画期的な白いソールの採用により、ワークブーツとしても高い評価を得た。次第に全米中のワーカーに愛用されるようになり、いつしかアメリカを代表するワークブーツに。このアイリッシュセッターシリーズは、80~90年代の日本でも一大ムーブメントを巻き起こした。しかし、1999年、アイリッシュセッターの名をレッド・ウィングブランドのワークブーツに使うことが禁じられ、アイリッシュセッタータグを配したブーツが日本市場から消えてしまった。2011年、アイリッシュセッターは再び復活を遂げた。誕生した1950年代のディテールが再現された、ゴールドラセット “セコイア” を纏った3モデル [No.9875] [No.9871] [No.9866] が発表された。2012年には、茶芯のレザーを纏った [No.9870] [No.9874] が新たに仲間入りした。

